

平成29年度 分科会施策の管理シート

分科会名	長寿サポート分科会	会長	多田 敦彦
------	-----------	----	-------

重点項目	今後、新たに有効と考えられる施策	数値目標	【達成時期】平成29年度末 【目標値】出前講座増加。もりもり体操11団体増加。認知症ケアパス講座88か所。	分科会事務局	長寿支援課
------	------------------	------	--	--------	-------

期 初(前年度末まで)	期 中(~9月)		期 末(~2月)…進捗・評価は見込で可		次年度へ			
	分科会事務局	分科会の意見	分科会事務局	分科会の評価				
【施策名・概要】	【実行する内容】	【達成時期】	【目標値】	【達成度・成果について】	【課題・進捗管理】			
1	<p>介護予防事業の強化(集いの場の確保)</p> <p>高齢者の1割の1,400人を目標に、元気もりもり体操の自主活動団体を育成する。出前講座のほか、新たにB&G海洋センターに「出張もりもり応援団」事業を委託し、地域団体の立ち上げ支援を行う。</p>	<p>介護予防・重度化予防の仕組みと集いの場を身近な地域の中に構築し、元気高齢者を増やす必要がある。</p>	<p>啓発のための介護予防の出前講座の回数と参加者(1月末現在19回743人)の増加。 介護予防に関する講演会の回数と参加者(148回3,818人)の増加。 元気もりもり体操の自主活動団体を11団体増やし、累計31団体とする。</p>	<p>啓発のための介護予防の出前講座の回数と参加者:8月末現在6回207人。 介護予防事業の強化、通いの場の確保策としての「元気もりもり体操」に取り組む自主グループ数は、3団体増の23団体、約460人。 B&G海洋センターへの「元気もりもり体操」の委託実施に合わせ、今年度からは自主グループを支援する「出張もりもり応援団」も実施。</p>	<p>元気もりもり体操に取り組み団体数の拡大スピードが緩やか。至れり尽くせりの立ち上げ支援プログラムを準備しているというPRが足りないのではないか。1年で自主グループを立ち上げる支援コースの運用を厳格にすることも必要か。 また、「取り組まない損」「自分のため」というPRをもっと前面に打ち出すべき。</p>	<p>介護予防に関する講演会はH29年度上半期で81回、1,950名参加と増加傾向を示す。「元気もりもり体操」の自主グループ数は、7団体増の27団体、約540人。</p> <p>介護予防の講演会は目標数値を変更。上半期の実績は昨年度を上回る。「元気もりもり体操」の団体数は目標を下回る。今後は「もりもり体操」に限定せず、介護予防に資する住民主体の集いの場の増加のため町内会等へ働きかける。</p>	<p>○介護者の支援は地域密着型。老人会や民生委員児童委員など地域団体は協力し、健康寿命を延ばす各種講座・運動を展開している。</p> <p>○地域のネットワークを活用した事業展開・仕組みづくりや、活動の拠点となる集う場の確保が必要。</p>	<p>【進捗管理】要</p> <p>【課題】他の分科会や多くの団体との連携・強化運動と栄養を両輪とした情報発信</p>
2	<p>認知症施策の推進</p> <p>平成28年度に作成した認知症ケアパス(手引書)を全戸配布。いきいきサロンを中心に認知症サポーター養成講座と合わせて認知症ケアパスの講座を実施し、普及啓発を図る。</p>	<p>65歳以上の5人に1人が認知症と言われる現在、予防と同時に認知症になっても安心して暮らせる地域づくりが必要。</p>	<p>認知症になっても安心して暮らせる地域を構築するため、88か所の全いきいきサロンで認知症ケアパスの講座を実施。小中学生に対する認知症サポーター養成講座の実施回数(1月末現在3回)の増加。</p>	<p>認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れを示した標準的な手引書「認知症ケアパス」を全世帯に配布し、市内88か所の全いきいきサロンで講座を実施中。認知症が疑われる人の早期診断・対応のため、専門職が直接訪問、観察・評価し自立生活をサポートする「認知症初期集中支援チーム」のこれまでの実績は、南部圏域2件、北部圏域1件。小中学生に対する認知症サポーター養成講座の実施回数は0件。</p>	<p>イギリスでは高齢者の健康管理の徹底により認知症を約10%減少させている。総合健診の受診率を上げ、医療機関との連携による取組が不足している。 老年医学会が高齢者の定義を変えるポジティブな提言をしたが、それが政策に反映されていない。高齢者が10歳若返っていることに注目し、社会活動の参加を促し、そのことが認知症その他の病気の予防に繋がるという視点が必要。 また、地域の中で認知症をみる、人間を大切にすることが必要。</p>	<p>「認知症ケアパス」の講座は、12月末現在、56/86か所のいきいきサロンで開催。認知症サポーター養成講座は2回58人参加。認知症初期集中支援チームによる支援は、南部圏域5件、北部圏域1件。 認知症になっても安心して暮らせる地域を構築する取組みは、地道に進む。府中市の要介護認定率は、要介護度別、年齢階層別とも全国と比較して高いが、要介護認定者に占める認知症高齢者の割合も高い。今後は他の分科会とも連携した認知症の予防対策が求められる。</p>	<p>○今後も事業の継続は必要だが、集中と選択による重点化が必要。 予防策の一つとして改善指標がある糖尿病予防を突破口とするのも一つの方法。</p> <p>○小中学生に対する認知症サポーター養成講座は意義がある取り組み。 認知症初期集中支援チームの評価のためには、実態的な調査などが必要。</p>	<p>【進捗管理】否</p> <p>【課題】無関心な成人世代への取り組み。認知症初期集中支援チームの周知不足</p>
3								

- (注意事項)
- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
 - ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
 - ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行なうこと。評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
 - ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項	
------	--